

# 題目塔

片子を歩く

日蓮宗では「南無妙法蓮華

經」を題目だいもくといい、題目が刻まれた供養塔や寺院の石碑などを題目塔といます。日蓮宗寺院のある市内北部の飯高吉田、豊和地区には多くの題目塔が建てられています。

中でも特徴的な塔が片子区かたしんの妙印寺境内にあります。片子の集落は1400年代の創建とされる同寺周辺から形成されたようで、江戸時代後期の1845年に家数20との記

録があります。

題目塔は寺院を中心に組織された題目講や熱心な信者が建立し、「題目講」は安久山あぐやま(飯高地区)の1577年の記録が最も古いものとされています。

妙印寺本堂に面した一画に数基の題目塔があり、その中でひときわ大きな塔が1722年に建てられました。この塔は、同寺16代日貞にちていが中心となり片子村はじめ八日市場村、

ものほかにありません。

境内には市内で古い時代の1666年に片子、安久山飯高内の信者が合同で建てた塔もあります。

市内で墓碑を調べますと、飯高檀林で学んだ僧侶の墓を目にすることがあり、近隣村で生まれた者もかなりいたことが知られます。

今回、飯高檀林の化主けしゅ(檀林長)から身延山第51世法主ほつすず(住職)となった明静院日全上人の位牌を拝見する機会がありました。

今までの調査で、飯高檀林に学び最高位の化主の座に着き、その後本山身延山久遠寺(山梨県)の住職となった市内生まれの者が4人いたとされ、そのひとりが日全上人でした。

片子村に生まれ若くして飯高檀林に学んだ日全上人は、江戸などの寺の住職を経たのち、飯高166代化主に上り詰めました。1799年に身延山にすすみ、5年間法主を勤め1808年4月83歳で亡くなりました。その後、生家に位牌が届けられたのでしよう。

(元市職員・依知川雅一)

問 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080



片子の妙印寺にある題目塔

現在の多古町、旭市干潟におよぶ近隣40か村、1116人の信者が十万部のお経(法華經)を読んだ記念に建てたものです。市内の題目塔はほとんど調査済みですが、これほど多くの信者によって建てられた